

あだたら



特集
世代を超えてつながるJICA
～国際協力を日本の文化に～

(写真: JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2008表彰式
平成21年2月28日(土) JICA地球ひろば)

国際協力を 日本の文化に

「お母さんが JICA ボランティアだったから自分も挑戦してみる」、「お母さんは JICA ボランティア推薦で日本に来て、それで私も何かしたい」。JICA と出会い、JICA を通して世界の人々と出会い、社会に還元し、また人と出会い、つながり、広がり、思いが生まれ、行動し・・・そんなステキな国際協力の輪をぐるぐる回していきましょう！

～世代を超えて、つながる、広がる～

ここでは、福島在住の2組の親子を紹介します。

サクラ・エステルさん



▲授賞式のためJICA地球ひろばを訪れているサクラさん

サクラ・エステルさんは現在、福島県福島市にある桜の聖母学院中学校1年生です。JICA国際協力 中学生・高校生 エッセイコンテスト2008において審査員特別賞を受賞しました。その文章の中の一部をご紹介します。

私は今、福島で生まれて今年で13年目ですが、小さい頃から母と一緒にいた事で紛争の体験談をよく聞きました。その度に、幼いながら理解し、戦争や紛争を二度と全世界でくり返されぬよう考えていました。ですが今、世界ではまだ戦争や紛争で苦しんでいる人がたくさんいます。また戦争や紛争以外でも苦しんでいる人がいます。そして私も今まで苦しんでいた事があります。それは差別です。私は小さい頃から福島に住んでいたの日本人の中で一人だけ黒人でした。そのせいか、町を歩いていると必ず、町ですれ違った人達にじろじろ見られたり、内緒話をされてきました。私はいつも嫌な気持ちだったので自分が黒人である事をとてにくみました。けど、今では逆に思っています。その理由は、この体験を母に話した時、「そんな事は関係ないの。あなたはあなたらしくいればいいのだから」と言ってくれたからです。母の言葉に勇気づけられた私は母のために役立つような仕事に就こうと思い、目標を作りました。それは、母が作っている学校の教員になって母が言っていたように、少しでも多くの子供達に教育を教えることです。けれども私は、もう一つの目標があります。それは、全世界が平和になるよう祈り、そして平和活動などのいろんなイベントに積極的に参加をすることです。

カンベンガ・マリールイズさん



▲福島市に拠点を持つNPO法人ルワンダの教育を考える会は、キガリに学校を建設し運営支援をする傍ら、マリールイズさんによる日本各地での講演活動やイベント開催、民芸品販売を行っています。現地の学校にはJOCVが1名活動しています。

サクラ・エステルさんの母親であるカンベンガ・マリールイズさんは、NPO法人ルワンダの教育を考える会の副理事長として、講演活動を中心に全国に発信しています。

私が1987年に勤めていたCFG GACURIRO という専門学校にJICAの青年海外協力隊員が派遣されて来ました。生まれて初めての日本人との出会い。初の外国籍の教員で、2年間一緒に活動しました。彼女の帰国後に来た次の隊員とはいろいろなチャレンジをしました。彼女たちとの出会いが私の人生のターニングポイントだと思います。もし出会わなければ今の私がありません。すべての物事の始まりは出会いです。この出会いによって私たち家族は生きています。そのチャンスをくださったJICAに感謝の言葉が見つかりません。その出会いから得た日本語が私たち家族を救いました。15年前ルワンダが内戦状態となり、私が日本に帰国して2カ月後の虐殺でたくさんの命が犠牲となりました。私たち家族は幸いなことに生き残ることができました。そして逃げたゴマ内キャンプで偶然出会った日本人医師の通訳の仕事を通し、その出会いが私たち家族に生きる希望を取り戻しました。今生きていられるのはここに書ききれないたくさんの出会いのおかげです。それらの出会いによって娘のサクラ エステルはこのようすばらしい賞をいただくことができました。今まで関わってくださった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。これを読まれる皆様、人生においてすべての物事の始まりは出会いであることに気付いていますか？そして出会いの力を感じていただけでしょうか？皆様の周りにはたくさんの出会いの場所があります、ですが出向かなければ何も始まりません。ぜひ一歩を踏み出して参加してみてください。きっといい出会いが皆様を待っていますから。

布田 雄哉さん



▲布田さん

布田雄哉さんは現在、青年海外協力隊（平成20年度 第4次隊）として、エクアドルに水泳の職種で派遣されています。

布田さんからの現地レポートがこちらです。

私が国際理解、国際協力というものに興味を持ちだしたのは少なからずとも母親の影響はあると思います。物心ついた時にはすでに外国の方が家に食事に来ていたり、国際交流の場に連れて行ってもらったりなど、そういった環境の中育ったので、日本以外の国に対し特になんの抵抗もありませんでした。またそういった両親なので自分が学生時代留学することにも常にサポートしてくれて、そのおかげで貴重な経験を積むことができました。

そして今かつての母親と同じ青年海外協力隊としてエクアドルに派遣され、水泳の指導にあたるわけですが、世界の様々な出来事に比べたら本当に草の根程度のボランティアなのかもしれません。しかしこのボランティアが日本とエクアドルの、日本と世界の懸け橋になればとおもっております。そんな大きなことを言っておりますが、まずは日々のボランティアに自分のできる最大限のことを精一杯やっていきたいと思っております。そして2年後に現地の皆に布田雄哉がボランティアで来てくれて本当によかったと言ってもらえることが今の私の夢です。

布田 節子さん



▲ふくしま青年海外協力隊の会は、青年海外協力隊の帰国隊員の会です。青年海外協力隊事業の啓発・普及活動や、地球体験キャラバンの実施、国際理解教育・開発教育の実践、その他イベント参加等、地域社会の国際化推進のための活動を行っています。

布田雄哉さんの母親である布田節子さんは、ふくしま青年海外協力隊の会に所属し、地域に根ざしたさまざまな活動を行っています。

私が青年海外協力隊を知ったのは、大学の掲示用黒板にチョークで書かれたものでした。いつか外国にいったみたかった私。将来体育教師になることを目指していた私。得意の器械体操を体育学校で教える仕事。しかも外国で。「チャンスは出会ったときにしっかり握手しておかないと、通り過ぎてからは呼びかけても振り向いてくれない。」という教授の一言に行くことを決心。まだ大学生だった私の白いキャンバスには、エル・サルバドルでの2年間で強烈な原色で力強く描かれていきました。その後、現地視察の旅に同行した折25年ぶりに当時の生徒たちと再会しましたが、私たちが蒔いた種は大きく育ち、木になっていました。「人は違うけどみんな同じ」「ものさしは一つではない」「人は一人では生きられず、回りから支えられて生かされている」「人の話は聴く」すべて協力隊経験から学んだことです。これらを開発教育として子どもたちに伝え、また自分の生き方を通して社会還元していくことが、私の使命でありライフワークです。39年の時を経て、息子が水泳隊員としてエクアドルに派遣されて1ヶ月が過ぎました。子どもを送り出す親の立場になって、あのときの母親の言葉を思い出します。「私が反対してもあなたは行くでしょう。気持ちよく送り出してやりたいから。」と言って、着物やドレスを用意してくれました。私は経験者ですしメールでもつながっているから比較的平静でいられますが、母の場合は初めての海外で途上国、しかも娘を行かせたのだから、胸中はいかばかりであったことでしょう。家族の理解と支えがあったからこそ、行って来れたと改めて感謝しています。

ふくしま青年海外協力隊の会 ホームページ :<http://foca.jocv.net/>

ご家族の声

母の活動を見てきて、どんどん活動の輪が広がっている、いろいろな人がつながっていると感じます。Mixiにもルワンダの教育を考える会のコミュニティがあり、若い人の反応も盛んです。テレビや映画でルワンダのことを知る人が多いですが、そこから一歩進んで、知りたい、参加したいと行動に移す人が増えればもっとよくなると思います。

(カンベンガ・マリルイズさんの長女、イラコゼ・ダニエルさん)

娘が青年海外協力隊として海外に行くとき、途上国の情報はまだまだ少ない時代でしたし、不安と心配でできることなら行かないでほしいと初めは反対しましたが、視野を広め日本の文化を広めてくるのも良いだろうと、自分自身を納得させて送り出しました。今ではその経験が社会に役立っているようなので、嬉しく思っています。孫も今、派遣中ですが、とにかく元気で頑張っていて、多くのことを学んで成長し、帰国後は立派な社会人として世の中に役立つ人になってほしいと願っています。

(布田節子さんのお母様、山岸アキさん)

より多くの県民の参加を願って今回改善した

3つのポイント

平成21年度 JICAボランティア (青年海外協力隊 シニア海外ボランティア) 春募集

21年度春募集では、募集説明会に次のような特徴を新たに持たせることで、これまで以上に多くの福島県民の方が興味を持って気軽に参加できるような説明会を目指しました。

その1! 強力応援団 サポーター

話題の「やきとりじいさん体操」の考案者 岡田麻紀さんの体験談を実施しました。

岡田さんは、元協力隊員。太平洋のバヌアツ共和国に平成13年度第1次隊として派遣され、体育教師として3年間滞在しました。

前半の体験談では、やきとりじいさん体操考案に至る誕生秘話を披露。現地で改めて健康な体に感謝する気持ちが生まれ、それがエクササ

イズ考案につながり、「私なりに笑顔をいっぱい広げる」ことの実践が、この体操になったそうです。バヌアツの眩しい太陽のもと、笑顔いっぱい写真とともに楽しいお話を聞くことができました。

後半は個別相談者以外の参加者でやきとりじいさん体操を体験。リズムに合わせて思い切り体を動かしました。

なんとこの日は「やきとりじいさん体操」作曲者の歌声で体操！シンガーソングライター・もりたかし氏も来場し盛り上げました。



▲岡田さん(左)と
もりたかし氏



▶会場では体操をしている様子

その2! 福島空港との ジョイント企画

福島空港誘客プロジェクト事業の一環として「2009 福島空港 YOU/YOUR フェスティバル」にて、春の募集説明会を実施しました。

ゴールデンウィーク中の5月3日(日)は天気もよく、家族連れがたくさん訪れていました。福島空港駐在の県職員、奥山紳さんが

元協力隊員というご縁で今回のタイアップが実現しました。奥山さんは平成13年度3次隊、村落開発普及員としてバングラデシュに現職参加制度を利用し参加。「にぎわいを作るために今回のJICA募集説明会を企画した」とのことで、結果「予想以上の集客があった」という

れしい報告でした。当日は奥山さん自身が民族衣装を着て体験談を実施。滑走路の見える部屋での説明会となりました。福島空港では秋(9月)に空の日フェスティバルの開催を予定しており広く来場を呼びかけるとともに、「大勢の方に福島空港を利用してもらいたい」とお話をされました。今後もJICA二本松と福島空港の連携を深め、市民にとって身近な国際協力の場を提供していきたいと思っています。



その3! 県内大学での 説明会実施

途上国からの要請が多い分野の学生を対象とするために、福島県内にある大学においてJICAボランティア募集説明会

を行い、その中で協力隊体験談や日本の国際協力の紹介を行いました。今回実施した大学は、福島大学の他、桜の聖母短期大学ですが、6月には会津大学他が予定されています。終了後には質問す

る学生も多く、国際協力への関心の高さが伺えました。これにより県内各地で行う説明会の来場数や、JICA二本松で行う一日体験プログラムへの参加数も多くなっています。



異文化の眼

[第3回]

～第2の故郷、福島～



スワヒリ語 語学講師 エスター・サムエル・カノマタ先生



▲タンガ市の海岸

こんにちは、私の名前はエスター・サムエル・カノマタです。私はタンザニア人で、タンガ市で生まれました。

私が二本松に来てから、たくさんの人たちに出会いました。福島に住む人々は、その気候と反対に、とても親しみやすく、また温かい人々だと感じています。たくさん心温かい人たちに出会いました。彼らは、私がここで生活をよりよく過ごすためにいろいろと手助けしてくださいました。しかし私が今まで知っていることと違うこともあるため、少し日本語を学ぶ必要もありました。

たくさん市民がアフリカに興味を持ち、そのうちの何人かは自分で調べて、タンザニアのことを私に聞いてくるほどです。私は以前、タンザニア料理の一つ、“ニク バナ”を教える機

会がありました。そこでグリーンバナナと肉の料理の仕方を教えました。多くの人たちが、グリーンバナナはやわらかくならないと思っていました。この料理教室はテレビで放映され、その料理に挑戦した市民は、とても楽しんだとのことでした。私もまた日本の文化と歴史について学ぶ機会がありました。

私はもうしばらく福島に住んでいます。福島に来たとき、タンガ市と気候が全然違うことに気づきました。初め、こんなに寒いところじゃ暮らせないと思いましたが、今ではその気候にも少し慣れました。私は福島の四季が好きです。でも花粉症は嫌いです。福島とタンガ市には、山や景色、新鮮な果物や野菜、お米があるという共通点があります。私は福島の観光名所である花見山（私のお気に入りの場

所)、四季の里、五色沼、ハワイアンズ、三春の滝桜、猪苗代湖などに出かけました。また私はアクアマリンふくしまには2回行きました。というのも、故郷タンガ市の珍しい魚（シーラカンス）についての研究に感銘を受けたからです。それに関するテレビ番組を見たときには、タンガ市がとても身近に感じました。ぜひ研究を続けて欲しいというのが私の希望です。訓練所に行くときや帰りにいつも岳温泉を通るので、月に1～2回温泉に入りに行きます。福島は、故郷タンガ市のようにたくさん訪れるべき場所があると思います。

私は福島市民と結婚し、義理の家族から多くのことを学んでいます。ですから福島はもう私にとって第2の故郷であり、私は福島が好きです。



タンザニア連合共和国 国旗

タンザニア連合共和国 Data

面積：94.5万平方キロメートル
人口：4043万人(2007)
首都：ドドマ
言語：スワヒリ語、英語
通貨：タンザニア・シリング



▲タンガ市付近の村の様子

ふくしま発! 私たち、国際協力 しています



桜の聖母学院 中学校・高等学校 (福島県 福島市)

桜の聖母学院では、生徒会と代議委員が中心となり、「インド・スポンサーシップ」に参加して、募金活動をしてきました。先輩方から代々受け継がれてきた活動でしたが、私たちはその本当の意味も知らず、ただ募金をしてきました。

そこで、私たち代議委員は昨年、今のインドの状況を、学校のシスターに聞くことから始めました。すると、お金がないために病院に行くことができずに亡くなってしまふ子どもたちや、学校に行く事ができず、読み書きなどの基本的なことが身につけていないため、まともな仕事に就くことができない人たちが多くいることが分かりました。

今まで私たちは、この募金活動を「今までやってきたから」とか、「先生に言われたから」という理由でやってきたように思います。しかし、このことを通じて私たちは、誰かに「やらされる」活動ではなく、自分たちが自主的に「行う」活動が本当に大切だと感じ、昨年初めて、リサイクル活動を企画しました。家庭にある資源ごみを集め、それを買い取ってもらう事で、少しでもインドの子どもたちの役に立てればと考えたのです。

この活動は学校にとっても初の試みで、企画書の作成や先生方との話し合い、協力してくださる企業探しなど、準備は本当に大変でしたが、これらの活動を通

して、全校生が活動に参加できたことと、少しでもインドの子どもたちについてみんなで考えることができたことは、とても良い経験となりました。

そのほかにも、インド募金の趣旨と子どもたちの現状をより知ってもらうために、実際に送られてきたインドからの手紙や写真を使ってプリントを作って募金を呼びかけたり、総合的な学習の時間に栽培したサツマイモをみんなに販売して、その売り上げを募金にあてたりもしました。

今年も、昨年度の活動や反省をいかして、学校の中だけでなく、地域へも大きくこの活動を発信し、広げたいと思っています。



シリーズ連載

JICA ボランティア訓練中!

地域の皆さん、こんにちは!!

～ JICA 二本松青年海外協力隊訓練所 所外活動情報～ 【第2回】

JICA 二本松青年海外協力隊訓練所では、JICA ボランティア（青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア）を対象として 65 日間の派遣前訓練を年に 4 回実施しています。訓練プログラムの一つ所外活動は、ボランティアたちが訓練所近辺の保育施設、福祉施設、農家などを訪問し、それぞれの施設での日常業務を体験します。「普段と違う環境でどのように人々と関わり合い、相手の役に立てるか」について実践を通じて考える機会とし、任国での活動に活かすことが目的です。



所外活動受け入れ先：NPO法人 SWELL IN FUKUSHIMA ワークショップつぼみ（今回が初の受け入れ）

SWELL IN FUKUSHIMAは、福島市内に 4 つの作業所を持つ地域活動支援センターです。陶芸・織物などを行う「あとろえ」、有機野菜作りや配達を行う「いるかハウス」、2頭のポニーとのふれあいの場を提供する「ポニーガーデンIN上野寺」、そして今回取材した洋菓子調理・販売の「つぼみ」があります

理事長の穴澤さんは、NPOの報告会で JICA の取り組みを知り興味を持ったことが受け入れにつながったそうです。「4 つの作業場という特徴ある施設を活かし、利用者がいろいろな生活経験ができるよう、また人と人とのつながりを広げて楽しく活動できるように、どんどん学びあいの場を広げていきたい」と語ってくださいました。

この日一緒に作ったのは、スノーボールクッキー、いちじくバターケーキ、ビスコ、などです。無添加で厳選した素材を使用しており、リピーターも多いとのこと。福島で採れたフルーツを使っての手作りジャムも人気の品。（取材日 平成21年4月30日）



ボランティアの声

普段あまり接することのない人たちや環境の中で、貴重な体験となりました。名前を覚えて話しかけるよう心がけました。

(SV/タイ/松本光司)

皆手際良く作業していて驚きました。足手まといにならないか不安でしたが、丁寧に教えてくださいました。お菓子もとてもおいしかったです。

(JOCV/カンボジア/渡邊紗代)

6月～8月の イベント情報

6月11日(木)	平成21年度 第1次隊 修了式
6月19日(金)	JICAボランティア自治体表敬
6月17日(水)～	中・高校生エッセイコンテスト 募集開始(締め切り9月9日(水))
6月27日(土)	開発教育指導者研修
7月9日(木)	平成21年度 第2次隊 入所式(予定)
8月2日(日)	JICA二本松オープンハウス 地球体験キャラバン実施
8月3日(月) ～13日(木)	教師海外研修 中国

JICA二本松 公開講座

JICA二本松では、JICAボランティア向けに様々な講座を実施しています。下記の講座では、一般の方々も無料で参加することができます。

開催日	時間	講座内容
6月1日(月)	15:10～17:00	公開講座『イスラム教とは何か』 講師：青山弘之 (東京外国語大学 総合国際学 研究院国際社会部門 准教授)

※「公開講座」の申し込み方法は、下記JICA二本松の電話番号にて募集・広報担当者宛にお問い合わせください。また詳しい情報は、ホームページにてご確認ください。

<http://www.jica.go.jp/nihonmatsu/event/index.html#a0413-01>

国際協力推進員交代のお知らせ

橋本推進員の後任として、4月より清海推進員が着任しています。お気軽にお問い合わせください。



清海推進員(左)

JICA 福島デスク

〒960-8103 福島市舟場町 2-1
財団法人福島県国際交流協会内
電話 024-524-1315 FAX 024-521-8308
e-mail: jicadpd-desk-fukushimaken@jica.go.jp

業務担当部署変更のお知らせ

福島県内の皆様のご協力を得て実施している海外技術研修員受入研修業務と草の根技術協力事業に係る業務につきましては、JICAの業務体制の効率化を図るため、平成21年4月1日よりJICA二本松に代わってJICA東北支部が担当させていただくことになりました。

これまでの皆様のご厚情に感謝するとともに、今後も引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

当該事業・業務につきましては、今後のお問い合わせ等はJICA東北までお願いします。

JICA東北

(研修業務：総務課 草の根技術協力業務：市民参加協力課)

〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町 4-6-1
仙台第一生命タワービル 15階
電話 022-223-5151 FAX 022-227-3090

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/index.html>

JICA二本松へのアクセス

独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所

E-mail: jicanjv@jica.go.jp

〒964-8558

福島県二本松市永田字長坂4-2

TEL: 0243-24-3200

FAX: 0243-24-3214

※皆様からのご意見等をお待ちしております。

◆本誌、バックナンバーがご覧になれます...

URL <http://www.jica.go.jp/branch/ntc/jimusho/newsletter.html>

